

事業名	幼稚園における預かり保育の推進
担当課	学事課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	5	施策の方向	②	施策番号	1
当初予算額(千円)	247,400			決算額(千円)	239,949		
事業の概要・目的	幼稚園の教育時間の前後や休業期間中(土日祝日・長期休業)に、園児を幼稚園内で過ごさせる「預かり保育」を実施する学校法人立等幼稚園に対し人件費を補助することにより、保護者の育児負担の軽減及び仕事と生活の調和の促進を図る。						
数値目標など							
指標名等	-						
目標	-	実績	-				

2 事業の実施結果

通常日預かり保育に対する人件費の補助・・・289園へ計208,191千円
 長期休業日等預かり保育に対する補助・・・212園へ計31,758千円
 合計289園へ239,949千円を交付した。

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)		
	★視点2 受益の公平性			
No.	チェック項目	チェック	説明	
4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか			
実施結果・効果	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか		
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか		
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか	○		
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか			

(2)改善点等

＜課題・今後改善すべき点＞
 早ければ平成27年度に「子ども・子育て支援新制度」が施行されることに伴い、本施策についても今後見直しを行っていく必要がある。関係団体と連携し新制度への円滑な移行に取り組み、地域の子育て支援の量の拡充や質の向上に努める。

4 委員意見

国の制度に基づき補助金を配布しており、県として独自の工夫をすることは困難があると思われる。来年度以降、事業の実施主体が市町村に変更される予定ということなので、事業実施に当たっての課題を整理し、今までの経験を活かして市町村を指導して行って欲しい。
 なお、この制度がより効果的に活用されるよう、今後、積極的に県民への周知を行っていくことも期待したい。

事業名	保育所施設整備の助成
担当課	児童家庭課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	5	施策の方向	②	施策番号	2
当初予算額(千円)	4,267,000			決算額(千円)	3,627,773		
事業の概要・目的	県内の保育所における入所待機児童の早期解消と新たな保育需要への対応及びより質の高い保育環境の整備のため、民間保育所の創設・増改築の促進を図る。						
数値目標など							
指標名等	子どもを生き育てやすいと感じる家庭の割合(子育てアンケート) 保育所の待機児童数が50人以上の市町村数						
目標	保育所整備により待機児童を減らす。	実績	5市町村(H25.4.1)				

2 事業の実施結果

68施設、3,088人の定員増を図り、子育て家庭の支援を行った。

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)		
実施結果・効果	★視点2 受益の公平性			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか		
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか		
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
No.	チェック項目	チェック	説明	
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか			
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか	○	68施設、3,088人の定員増を図り、子育て家庭の支援を行った。	
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか			

(2)改善点等

<p><改善した点> 68施設、3,088人の定員増を図った。</p> <p><課題・今後改善すべき点> 保育所の待機児童は大きな社会問題となっており、今後は保育所施設整備の促進と合わせて、家庭的保育事業や小規模保育事業等も活用し、待機児童の解消を図る。</p>

4 委員意見

<p>当事業は予算も充実しており、評価できる。待機児童の解消に向け、今後とも県の努力に期待したい。来年度から、国の新しい制度がスタートし、子育て支援は市町村が主体となって実施することになるとのことだが、地域格差を広げないためにも、県として、特に郡部における子育て支援の充実を図って欲しい。</p>

事業名	保育士拡充への助成
担当課	児童家庭課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	5	施策の方向	②	施策番号	2
当初予算額(千円)	288,000			決算額(千円)	280,624		
事業の概要・目的	県内の保育所における入所待機児童の早期解消と新たな保育需要への対応及びより質の高い保育環境の整備のため、保育士の充実を図り、多様な保育ニーズに対応する。						
数値目標など							
指標名等	子どもを生き育てやすいと感じる家庭の割合(子育てアンケート) 保育所の待機児童数が50人以上の市町村数						
目標	保育所整備により待機児童を減らす	実績	5市町村(H25.4.1)				

2 事業の実施結果

国の基準を超えて保育士を配置した保育所に対し、人件費を助成し、多様な保育ニーズに対応するための体制づくりを推進した。
平成25年度は、延べ290施設に対し、人件費を補助した。

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)		
	★視点2 受益の公平性			
実施結果・効果	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか		
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか		
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか			
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか	○	延べ290施設に対し、人件費を補助	
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか			

(2)改善点等

<改善した点>
延べ290施設に対し、人件費を補助

<課題・今後改善すべき点>
特になし

4 委員意見

当事業は千葉県の単独事業であり、保育環境や保育の質の向上のためにも、今後も継続を願う重要な評価できる事業である。
助成の対象が、定員60人以上の保育所となっているが、今後はより小規模な保育所も対象とできるよう更に拡充されることを期待したい。
待機児童問題解決とともに、保育士の働く環境の改善や処遇の向上に今後も取り組んでいただきたい。

事業名	放課後児童クラブの助成
担当課	児童家庭課

1 事業の概要

基本目標	II	基本的な課題	5	施策の方向	②	施策番号	2
当初予算額(千円)	1,394,000			決算額(千円)	1,373,901		
事業の概要・目的	小学校に就学しているおおむね10歳未満の児童であって、その保護者が労働等により昼間家庭にいないものに、適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る。						
数値目標など							
指標名等	子どもを生み育てやすいと感じる家庭の割合 (子育てアンケート)						
目標	割合を増やす。	実績	75.9%				

2 事業の実施結果

市町村が実施又は助成する放課後児童クラブの運営費について助成を行った。(平成25年度：51市町村、648クラブ)

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)			
実施結果・効果	★視点2 受益の公平性			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか		
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか		
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか		
	8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか	○	
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか			

(2)改善点等

<改善した点>

小学校就学後の児童が安心して放課後等の生活を送るための場所となる放課後児童クラブの需要は年々増加する傾向にある中、放課後児童クラブの整備に係る助成制度等が充実され、より利用しやすい制度となった。(助成対象：創設のみ→創設、増改築、大規模修繕等)

<課題・今後改善すべき点>

放課後児童の健全育成を図るためには、運営費の補助基準額の引き上げ等、助成額の更なる増加を図る必要がある。

4 委員意見

放課後の子どもの安全・安心な居場所を確保するために、本事業は非常に重要であり、評価できる。ゆとりのある見守り体制を維持するためにも、今後も助成を継続していただきたい。
待機児童の多い政令市や中核市等に対しては、県からも施設整備を働きかけていって欲しい。働く女性にとっての一番の問題は、放課後児童クラブ等の施設の有無、入所の可否(全員入所可能)そして環境等の質の問題である。助成を通じて、質と定員の双方の充実が図られることを期待する。

事業名	子どもの医療費助成の充実
担当課	児童家庭課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	5	施策の方向	②	施策番号	3
当初予算額(千円)	6,610,000			決算額(千円)	5,711,623		
事業の概要・目的	子どもの保健施策の充実及び保護者の経済的負担の軽減を図るため、子どもの疾病に係る医療費について、市町村が行う医療費助成に要する経費を助成する。						
数値目標など							
指標名等	—						
目標	—	実績	—				

2 事業の実施結果

給付実績 ・延べ件数 7,277,384件 ・延べ日数 10,778,123日

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
実施結果・効果	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)		
	★視点2 受益の公平性			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか		
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか		
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか	○	
★視点3 男女共同参画社会形成への貢献				
No.	チェック項目	チェック	説明	
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか			
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか	○		
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか			

(2)改善点等

<改善した点> 特になし <課題・今後改善すべき点> 特になし

4 委員意見

医療費の経済的負担が減少することは、子どもの病気や怪我等の早期発見、早期治療を促し、子どもの心身の発達、成長につながる重要な事業である。制度の周知を徹底して、受給漏れの無いよう努力していただきたい。 子育て世代には大変重要な制度であるが、助成の対象などに地域差があるので、子育て環境の格差是正のため、何が出来るかも検討してもらいたい。 なお、今後、可能であれば義務教育終了まで通院も対象とすることを期待したい。

事業名	障害児・者やその家族に対する支援
担当課	障害福祉課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	5	施策の方向	②	施策番号	4
当初予算額(千円)	47,000			決算額(千円)	46,998		
事業の概要・目的	発達障害者支援センターにおいて、発達障害児(者)及びその家族の相談に応じ、適切な指導又は助言を行うとともに、普及・啓発や研修、関係機関等との調整を行う。						
数値目標など							
指標名等	相談者数						
目標	2,800	実績	1,201				

2 事業の実施結果

<p>発達障害者支援センターにおいて、発達障害児(者)及びその家族からの相談に応じ、支援を行った。 上半期：(1) 相談支援258人、(2) 発達支援179人、(3) 就労支援132人 下半期：(1) 相談支援・発達支援466人、(2) 相談支援・就労支援166人 ※データの取り方が年度途中で変わったために上記、集計方法となった。</p>

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)		
	★視点2 受益の公平性			
No.	チェック項目	チェック	説明	
4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか	○		
5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	×		
6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか	○		
実施結果・効果	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか		
	8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか		
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか			

(2) 改善点等

<p><改善した点> 特になし。</p> <p><課題・今後改善すべき点> 特になし。</p>

4 委員意見

<p>相談の内容など男女で異なる部分もあると思われるため、男女別のデータをとるようにして欲しい。 発達障害者支援センターの委託事業者の事情により、相談者数が前年より大きく減少してしまっているの で、利用者の不利益にならないよう、利用者の視点に立ち、事業者に改善を促してもらいたい。 相談体制の一層の充実を図るため、他の関係機関等との連携を推進することも重要である。なお、事業の 専門性などの理由から、同じ事業者が継続して受託しているということだが、今後は公募することも検討し てはどうか。</p>
